



二カ所存在する。文字の内容は適確には判読できないが、大意としては、舟子たちに何かを据えつけるように伝えたか、指示したものと考えられる。

(阿部嗣治)

昭和五八年度大宰府出土の木簡

昭和五八年度の大宰府史跡の発掘調査は、政庁前面の県道関屋—山家線と御笠川にはさまれた地域で数次にわたり行われたが、その概報が刊行された。そのうち特に不丁官衙地区南端の第八五次調査では、南北溝中から五八点に及ぶ木簡が出土した。内容は付札が二〇点を占め注目され、北方の蔵司地区付近で投棄された可能性が指摘されている。

福岡県教育委員会九州歴史資料館発行

『大宰府史跡 昭和五八年度発掘調査概報』

木簡研究 第三号

巻頭言——中国簡牘呼称についての提言——

大庭 脩

一九八〇年出土の木簡

概要 平城宮・京跡 平城京左京(外京)五条五坊七坪 藤原宮

跡 稗田遺跡——下ッ道—— 長岡京跡 大蔵司遺跡 西沖遺跡

御殿・二之宮遺跡 野路岡田遺跡 多賀城跡 漆町西遺跡 桜

町遺跡 白山橋遺跡 御館遺跡 御着城跡 鶴・城山遺跡 草戸

千軒町遺跡 野田地区遺跡 観世音寺僧房跡 大宰府学校院跡東

辺部

一九七七年以前出土の木簡 (三)

平城宮跡(第二次・第二次北) 薬師寺 下岡田遺跡

中国における簡牘研究の位相 池田 温

庸米付札について 狩野 久

静岡県城山遺跡出土の具注曆木簡について 原 秀三郎

草戸千軒町遺跡出土の木簡——形態を中心に—— 志田原重人

彙報

頒価 三五〇〇円 千四〇〇円